

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第48週 (11/23-11/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	48週	47週	46週	45週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	11/23-11/29	11/16-11/22	11/9-11/15	11/2-11/8	11/16-11/22
			48週	47週	46週	45週	47週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		2	1	4	0	16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	8	5	1	78
	感染性胃腸炎		21	13	25	11	183
	水痘		7	2	4	3	20
	手足口病		0	0	0	0	1
	伝染性紅斑		0	0	1	0	3
	突発性発しん	↓	11	13	12	10	52
	ヘルパンギーナ		1	2	4	2	4
	流行性耳下腺炎		1	1	3	1	11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	0	0	1	0
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	4	2	0	17
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	3	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(75件)

※新型コロナウイルス感染症71件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	結核	女性	70歳代	IGRA検査
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~80歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	-	-	-	-

*第48週は、結核4件(142)、新型コロナウイルス感染症71件(1078)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第48週のコメント

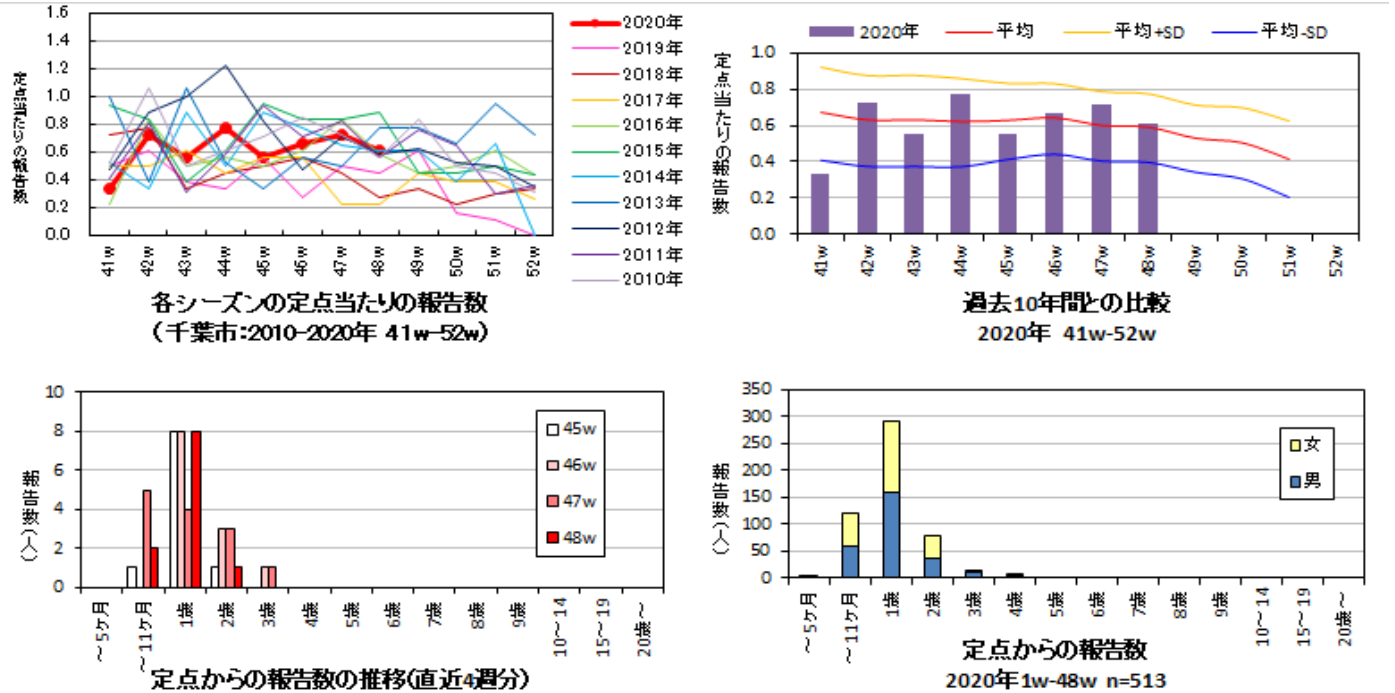
<突発性発しん> 前週より減少したが、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっている。

■ トピック ■

<突発性発しん>

全国レベルの第47週は0.45で、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、佐賀県及び宮崎県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は0.39で全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。

千葉市の第48週は、前週より減少し0.61となりましたが、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は、稲毛区及び緑区(共に1.00/定点)で最多で、両区とも1歳で最も多く発生報告がありました。2020年第1週から第48週までの累積報告数は513件で、男性が53.0%(272件)、女性が47.0%(241件)で、年齢階級別では1歳(57.1%:293件)、6-11か月(23.2%:119件)、2歳(15.4%:79件)の順で多くなっています。



<インフルエンザ>

2020年第47週の全国レベルは0.01で、過去10年の同時期と比べると非常に僅かとなっています。都道府県別では、徳島県及び福井県、岡山県の順に多く報告されています。千葉県は第47週は報告されていません。千葉市の第48週は0.04で、過去10年の同時期と比べると極僅かとなっています。これらは、新型コロナウイルス感染症対策による、マスクの着用、こまめな手洗い、3密回避や、国内及び国外との人の移動機会の減少といったことが影響しているものと考えられます。

11月23日付けの世界保健機構(WHO)のインフルエンザ情報によると、全世界的にこの時期予想されていた状況よりも低いレベルにとどまっていますが、東南アジア地域ではインフルエンザA(H3N2)の検出が報告されています。

新型コロナウイルス感染症同様に、高齢者や免疫力が低下している人がインフルエンザに罹患した場合は重症化のリスクがあります。また、子供では稀に急性脳症を引き起こし、重症化することがあります。インフルエンザワクチンには、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられています。

